

ないせい

高石市立清高小学校

編集・発行 末本 裕喜

学校通信「清高だより」を毎月配布していますが、今年度も必要に応じて校長通信「ないせい」を配布いたします。

「内省」とは？ 2年生以上の児童は、昨年度の話を出し、復習してみましょう。「内省（ないせい）」この言葉は、辞書で引くと「反省」と同じような意味で取り扱っているものもあり、「自分の考えや言動、行動について深く省みること」と書かれていたりします。校長先生は、この言葉について次のように考えています。



もし、誰かに嫌なこと（いじめ）をしようとしたとき、その行動をする前によく考えてやめることができれば、その行為（いじめ）はなかったことになります。行動を起こす瞬間やその前に「内省」をしっかり行うことができれば、あの時、こうすればよかったとか、こんなことしなければよかったということは激減するということです。当然、その行為（いじめ）によって、苦しむ子どももいないということになります。

してしまった過去は、消すことはできません。しかし、行動を起こす一歩手前の考えによって起こったはずの出来事が起こらなかった出来事にできるということです。一度、内省についてよく考えて実行してみてもいいでしょうか？



失敗は成功のもと

昔からよく言われる言葉ですが、先日、以下のような話を聞きました。物事を失敗する理由には、次のような場合があるという話でした。このことは案外、気がつかないなと感じました。

- ・自分が「こうあってほしい。または、こうだったらいいのに。」という思いに無意識に引っ張られて、失敗する可能性が高い状態になってしまう。
- ・過去にたまたまうまくいった成功体験に引っ張られてしてしまう。
- ・自分の所に来る情報が、情報をくれた相手の忖度（「相手の求めていることは何か？」という他人の考えや感情を察したり、予測したりする事を意味します。）のために、正しいものでなく、失敗してしまう。

失敗の中には、絶対にしてはいけない失敗もありますが、失敗によって人として成長することも多くあります。そして、失敗しなければ上に書かれたことは増幅し、大きな失敗をしてしまうかもしれません。もし、上に書かれた理由で失敗したものであれば、失敗の原因を考え、次に生かすことが大切だと思います。